

大島小6年「写真で残す大島の町プロジェクト」探究課題：残していきたい地域の特色や人々の魅力

<単元目標> 6年間学び育った自分達の住んでいる大島の町らしさをフォトブックにまとめることを通して、コロナ禍で変化する生活の中でも変わらないよさがあることに気づき、どのように撮影・表現すれば見た人に伝わり、残していけるかを考えるとともに、地域のよさを卒業後も大切に生活していこうと意識することができる。

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
①感染症により変化する生活の中でも、変わらない地域や地域に住む人々のよさに気付いている。 ②ゲストティーチャーから教わったフォトブックのポイントをいかして、写真や言葉を見やすいようにまとめている。 ③フォトブックを作る学習活動を通して気付いた地域のよさは、自分たちのこれからの生活にも深く関わっていくことであると理解している。	①大島の町らしさを写真に撮って残していこうという課題を捉え、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②町探検での調査やインタビュー、ゲストティーチャーとの交流でフォトブック作りに必要な情報を収集している。 ③複数の情報を整理しながら、関連づけたり比較したり、再検討したりしながらフォトブックの内容やデザインを決定している。 ④大島の町らしさや変わらないよさが伝わるような写真や言葉を選び、学んだことを基に工夫してフォトブックに表現している。	①課題を理解し、目的に向かってよりよいものになろうと主体的に考え、取り組んでいる。 ②友達の様々な意見を受け入れながら、協働的に活動に取り組んでいる。 ③自分たちが小学校を卒業したあとも地域のよさを残していきたいと考え、地域を見つめ直したり地域の人と関わったりしている。

年度はじめの子どもの姿

何事にも前向きに取り組む児童が多い。素直で明るく、先生や地域の人、PTA会長などに自分から話したり関わったりするなど、大人と関わるのが好きで、地域のために何かしたいという思いを強くもっている。昨年度の総合での取り組みに達成感を感じ、人のために行動することのよさを感じるとともに、コロナでできなかった活動をやりたい、もっと町のことを知りたいと思う児童が多い。思い立ったら無計画に行動しがちだったが、5年生では見通す力が伸びた。それでも思いが先走って目的からずれたり、一部の児童で活動が進んでしまったりすることがある。

きっかけ

○5年生までの総合をアンケートで振り返る。

地域のことをもっと知りたい。

昨年できなくなってしまった地域への活動を今年はしたい。

○これまでの地域との関わってきた学習の写真を振り返りながら、今年の総合をどうしたいか考える。

小さい頃からたくさんお世話になったな。

地域のために何かしたいけど、どうすればいいかわからない…

探究活動1

地域を歩いてコロナ禍の大島の町を見つめ直し、地域の“今”を知ろう。(19)

○PTA会長、町内会長の話を聞く。「つなげる」「残す」ためには何ができるのかな。

昔の〇〇が良かったって話があったけど…今何ができるのかな。

○地域の人の気持ちを明るくするために何ができるか複数の候補を出し、比較・検討する。
 案：イベント・祭 写真・アルバム 清掃ボランティア あいさつ運動 グッズ作り ポスター・ちらし (国語「私と本」ブックトークの活動と関連) →フォトブック

○どのようなフォトブックがあるのかを調べ、イメージをもつ。
 ○川崎市まちづくり局景観担当の方をゲストティーチャーに招き、話を伺う。
 ・皆だから見つけられる大島の町らしさが見つけられる。 ・1番大切なのはよく考えること。

実際に自分たちで歩いて見ることが大切だね。

前みたいに町探検をして地域をもう一度歩きたい。

探究活動2

残したい大島のよさをフォトブックにして発信しよう。(49)

○フォトブックを作る計画をたてる。条件や方法を整理する。
 ○町探検の視点(THE大島の町・変わったところ・残したいもの)を決めて、改めて大島の町を歩く。
 ⇒ コロナ対策 ステッカー 消毒液 テイクアウト 今あるお店・なくなったお店 地域の人との関わり、あいさつ 公園などの憩いの場 自分たちの気持ち 思い出

変わったことも変わらないことにつながっている部分があるね。

撮りたい場面が見つかった。

○町探検で気付いたことを話し合い、大島の町らしさとは何かを考える。

○自分たちが思う大島の町らしさを明確にしていく。

大島の町らしさ = 地域の人々の思いや思い出が詰まった場所・物・時

みんなは大島のどんなところに思いや思い出が詰まっているんだろう。

○先生や保護者、学校のみなが思う大島の町らしさをアンケートで聞く。結果を整理する。
 ○構成やレイアウトを話し合う。
 ○決められた予算に合わせてページ数やサイズ、仕上げ方法(手作りか印刷)などを検討する。
 ○取材や撮影の計画、分担をする。取材交渉、取材、撮影をする。
 ○撮った写真と思いが合っているかを検討する。(検討シールを使って話し合う)
 ○再撮影・修正をし、フォトブックを仕上げていく。
 ○お話し祭でフォトブックをデータで紹介し、コロナ禍の地域に対する思いを語り合う。
 ○お話し祭での地域の人、保護者の方との交流を振り返る。
 ○フォトブックを仕上げ、業者に製本を依頼する。
 ○地域にフォトブックを配付し、アンケートをお願いする。結果を整理し、1年間の活動を振り返る。
 ○図工「わたしの大切な風景」で描いた絵をもとに、国語「今、私は、ぼくは」で“自分と大島”についてスピーチをして交流する。

私は町の〜〜が好き。なぜならーだから。卒業したあとも〇〇さんに挨拶したり話したりして関わっていききたい。

ぼくは町の〇〇がお気に入り。これからもずっと残ってほしいし、自分も大切にしていきたい。

目指す子どもの姿

6年間学んだ自分達の住んでいる大島の地域らしさをフォトブックにまとめることを通して、コロナ禍で変化する生活の中でも変わらないよさがあることに気づき、どのように撮影・表現すれば見た人に伝わり、残していけるかを考えるとともに、地域のよさを卒業後も大切に生活していこうと意識することができる。

写真で残す大島の町プロジェクト

記録

○アンケート

5年生の総合振り返り、今年の総合について

- *大島のまちを元気づけたい。 *地域の人を元気づけたい。
- *地域の人と関わる総合がしたい。
- *「おおしまいいねプロジェクト」を進化させ、大島の町の人と交流などして、5年生では出来なかったことをやっていきたい。
- *「おおしまいいねプロジェクト」みたいな地域の人達が喜んでくれるような活動がしたい。
- *地域の人が元気になることがしたい。
- *5年生の続きのように川崎区を元気づけたい。
- *町の手助けをしたい。

○1・2年の町探検写真振り返り

アンケート「地域のために…」 → これまでの地域との関わりを振り返る

- *写真を見て、前地域の人にやさしくしてもらったから今度は恩返しをしようと思った。
- *改めて地域の人にお世話になったなと思った。おばら精肉店が今はなくなっちゃってかなしい。6年生の学習で地域の人に恩返しみたいな気持ちを伝えたい。
- *今のこの状況を逆に楽しくしたい。

○宮崎さん(PTA 会長)の話

昔の地域・大島の様子

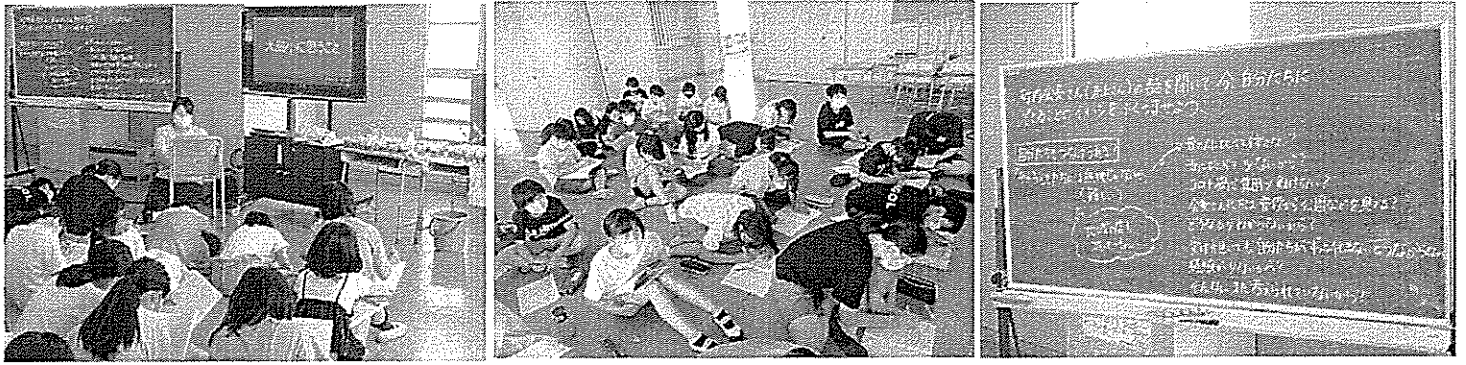
- *今はコロナのせいでできなくなってしまうものが多くてあまり楽しくない世の中だけど、自分たちで変えて楽しい生活ができたらと思う。
- *地域のためにできることはないかという思いがもてた。
- *昔の大島小学校を知れて良かった。今、地域のためになることがしたい。

○井上さん(町内会長)の話

商店街もなくなって子どもたちに地域の良さをつなげるのは難しいのではないかな

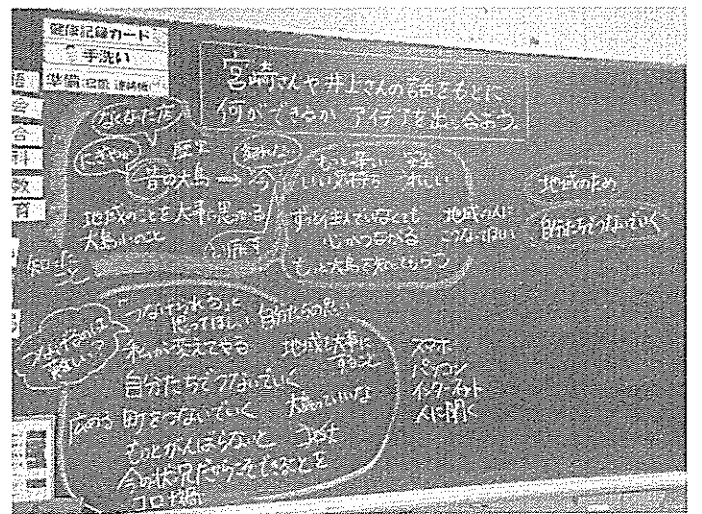
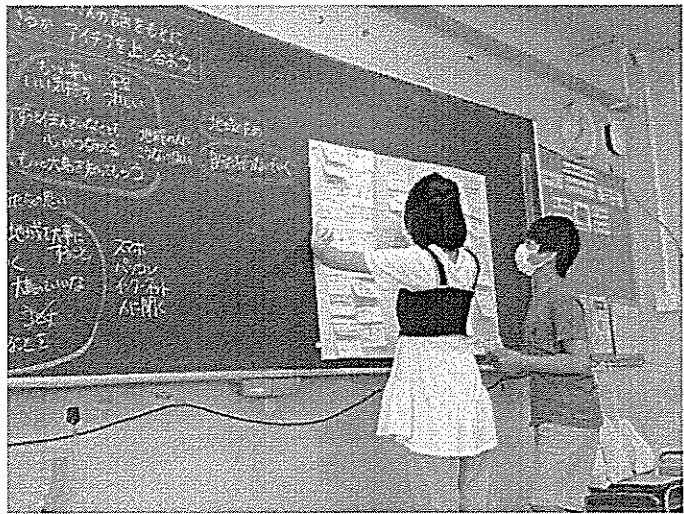
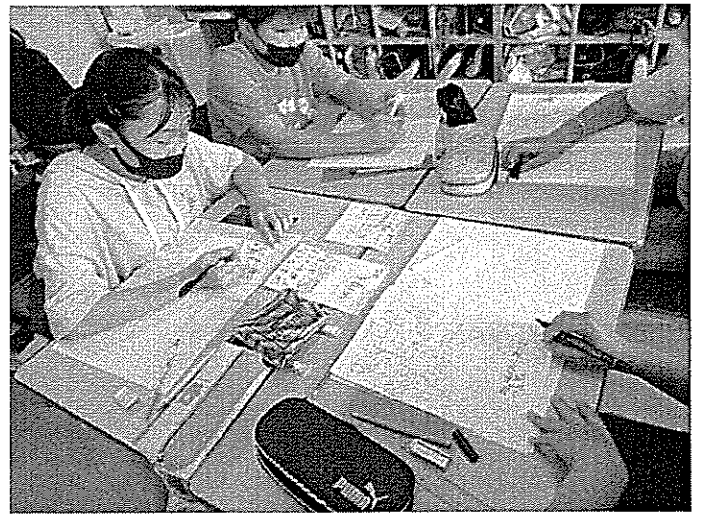
地域への思い、大島小の思い、昔の地域の様子

- *今この状況だから集まれなくても色々な人が元気になり、笑顔にさせてあげたい。
 - *井上さんが言っていたこと(商店街も衰退して子どもたちでは地域のよさをつなげることは難しいのではないかな)もわかるけど、わたしが変えてやる！！と思った。
 - *コロナで昔みたいには難しいけど、少しでも自分たちでつないでいきたい。
 - *大島小のことをすごく考えてくださっているんだと思った。私も大島っていいなと改めて好きになった。
 - *コロナ禍だからこそできることをしたい。
 - *ずっと住んでいなくてもお互いに心がつながっていたらつなげられる。
 - *町を盛り上げて「皆」でこの町をつなげていく。
- 自分たちが卒業しても、ずっと住んでいなくても地域のよさを残す、つなげられる活動をしよう



○できることのアイディアを出し合う

- *アイデアとしてとてもいいものがたくさんでた。これから話し合っていくにつれ、現実的なもの、現実的ではないものが分かれてくると思う。バザーや遊びなどは厳しいと思う。
- *大島小100周年やもっと先にもつないでいけるようなことをしたい。写真を入れて次の6年生につないでアルバムを作りたい。(地域の写真とか)
- *全部実現したいけど、特に地域のアルバムを作るというのをやりたい。
- *わたしはどれもいい意見だと思う。だけどコロナでできないこともある。



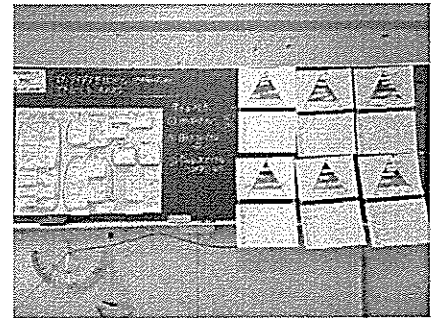
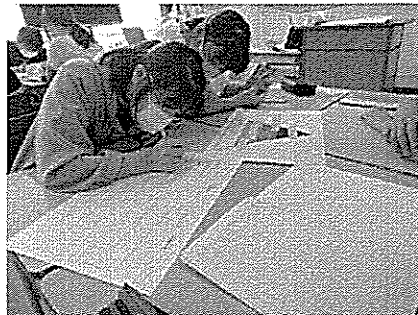
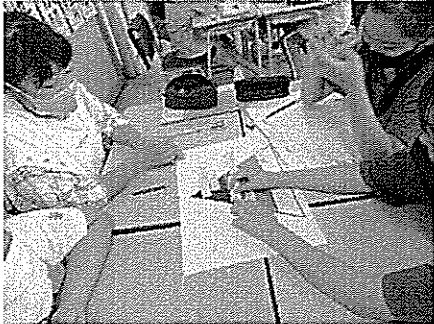
○ピラミッドチャートで絞る→共有

話し合う視点 ①地域のためにつなげられる・残せる ②自分たちでできる ③コロナ禍でできる

*これからみんなのため、地域のためのことをしていくのが楽しみ。毎年つなげられて残せること・ものをしたい。みんなによるこんでもらえるようにしたい。

*みんなほぼ同じような意見。決まったやつをちゃんと実現したい。

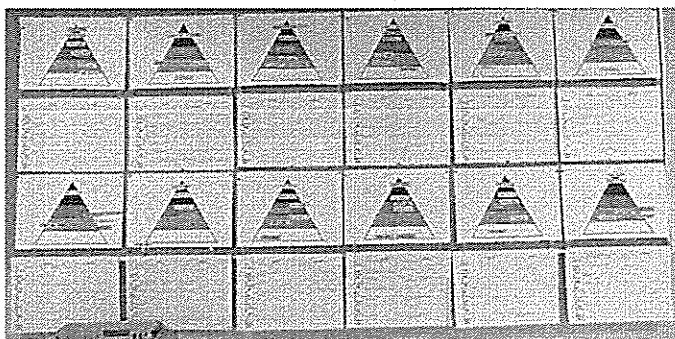
*決まったらすぐにやりたいと思った。



○ピラミッドから活動の中心を決める

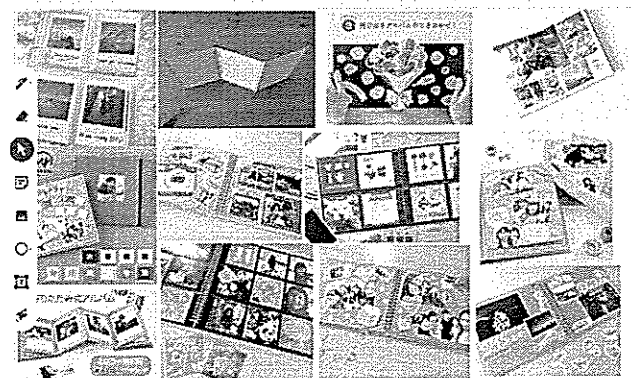
- ・ほとんどのピラミッドが写真・アルバムが多い。つなぐ、残すことができる。
- ・清掃ボランティアやあいさつ運動も多い。大島の良い雰囲気をつなげられる。
- ・イベント系は下のほうだ。コロナが減らないとやっぱり厳しい。

⇒写真・アルバムを総合の中心に、清掃ボランティアやあいさつ運動を国語の提案書の活動で行う。



○自分たちでどんなアルバムが作れそうか情報を集める

写真って何枚くらい撮るの？ 渡辺	どんな写真をとる？ 俊輝	グループになって写真を撮りたいと思う (はる)	←そしたら目的別でわけてもいいと思う。三浦
写真だけではなく、昔いたりするのもいいと思う 光雅	写真を入れる場所があったけど入れるなら地域の人のコロナ禍での気持ちを聞いて、言葉として入れたらいいんじゃないかな？ あん	地域別でグループを作りたいと思う のあん	地域の場所と人でわけてもいいとおもう みうら



地域に配れるなら地域の人が喜んでくれるようなアルバムを作りたい。

疑問な点もあるからこれからもっと話し合っていきたい。コロナの影響で人と関わることは厳しいし、難しい。アルバム作りで決めなきゃいけないのは、アルバムに映る人、材料、内容、配る人、地域(役割)の分け方。現実的になってきてみんながいいね！っていうのが多くていいと思う。次はみんなが納得するようにしぼっていききたい。

ずっと残していけるようなアルバムが作りたい。メッセージも入れたほうがいいと思う。だれが見ても気持ちが明るくなって、つないでいけるようなアルバムにしたい。

○川崎市まちづくり局景観担当の方から話をうかがう

- ・景観とは普段目にはしているながめのこと。
- ・川崎市では、「将来に残したいもの」「地域のよさを伝えるために重要なもの」を景観資源としている。
- ・すてきな景観を探してみよう。
- ・皆が大人になったときにどんな場所が残ってたらうれしい？
- ・フォトブックとして大島のまちなみを記録してカタチに残すってとっても素晴らしいこと。
- ・住んでいるみんなだからこそ気付く大島らしさがあるはず。

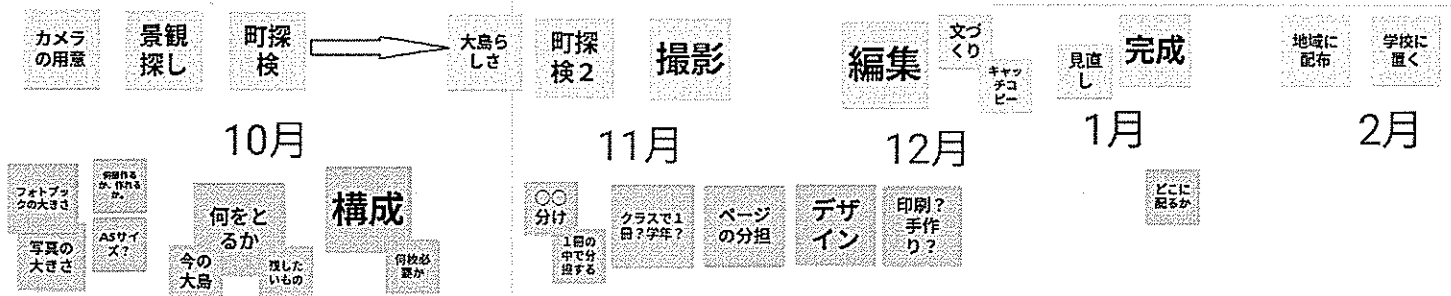
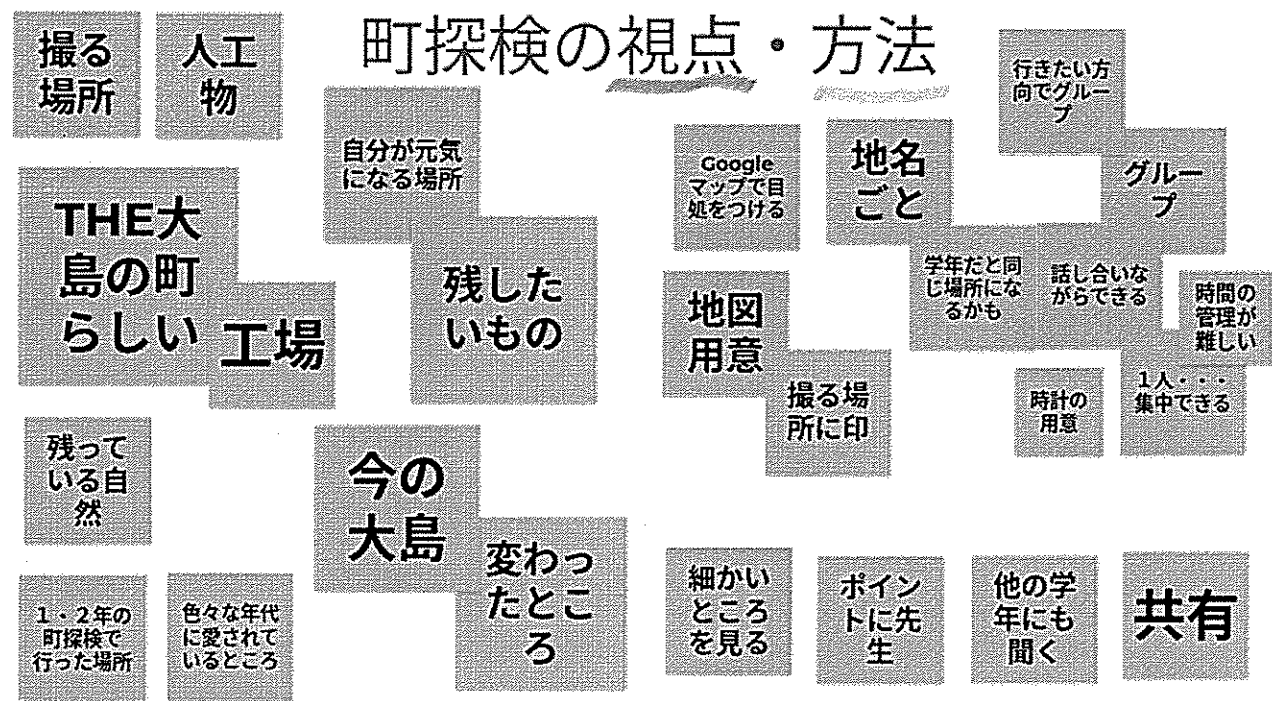


*どんな写真を撮ればよいかわかった。時間に余裕はないけど、みんなで力を合わせて満足できるアルバムを作りたい。

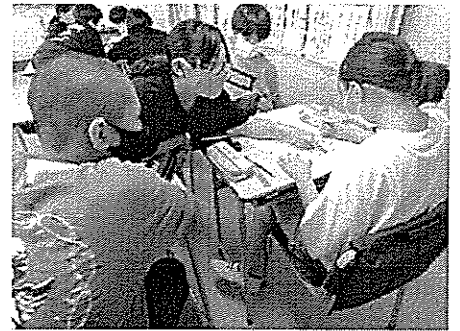
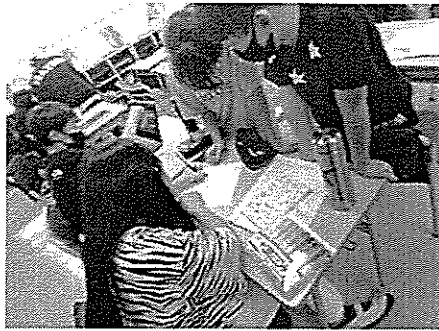
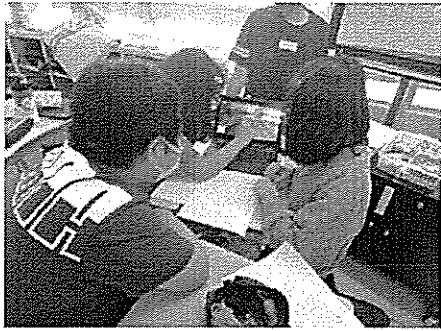
*作るのは大変そうだけど、帰り道などで風景を見たりして、思いを込めて作りたい。

*6か月もかかるなら急がないと。みんなで協力しなきゃ。

○学んだことから計画を立てる



○1回目の町探検の準備をする

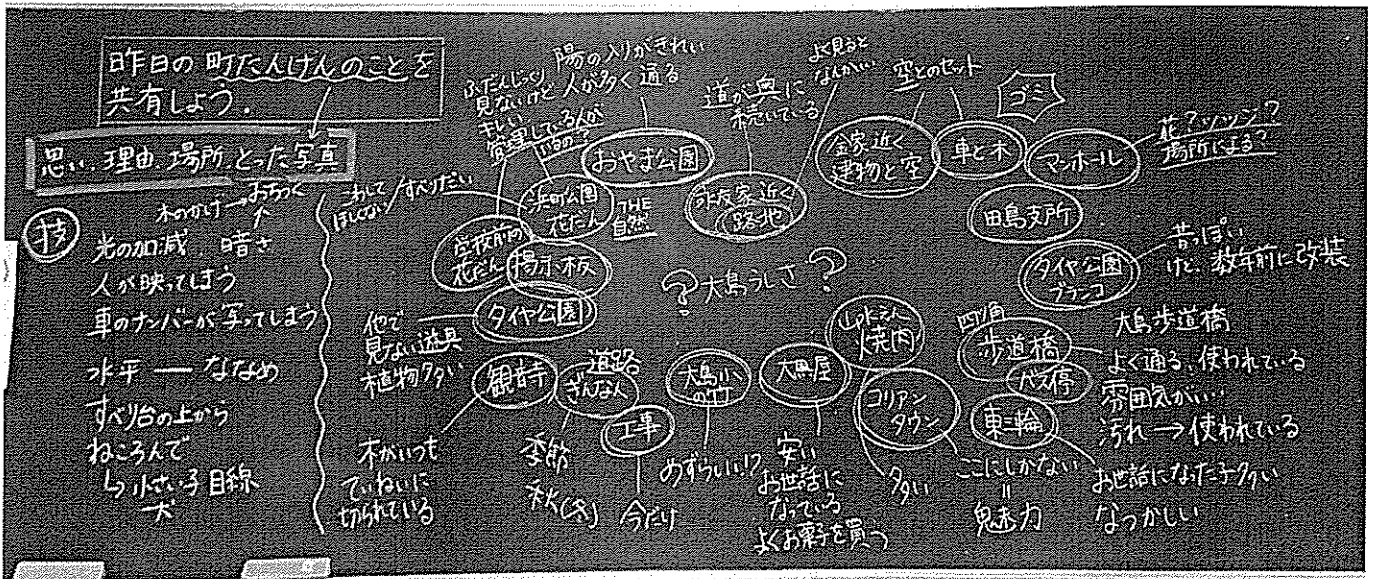


視点 ・THE 大島の町らしい ・今の大島／変わったところ ・残したいもの
 ＊今の大島らしさを見つけたい。
 ＊1年生や2年生のときと違うところやさらに大島らしいものや場所を見つけたい。

○1回目の町探検(浜町1丁目・鋼管通2丁目)をする



○1回目の町探検を振り返る



お世話になった よく通る よく使われている めずらしい
 ＊みんなの話を聞いてよいところはもっとあると思った。
 ＊6年近くいても知らないところもあった。みんなが知っているけど、自分が知らないこともあった。
 6年生らしさ、大島らしさを探していきたい。
 ＊大島の町には良いところが多かった。人も優しい良いところ。
 ＊みんながお世話になったところや珍しいところもあってどれも良い。色々な思いや理由があるんだ
 と思った。

○2回目の町探検の準備をする

*今しかない大島らしさを見つけるのが大切だと思う。

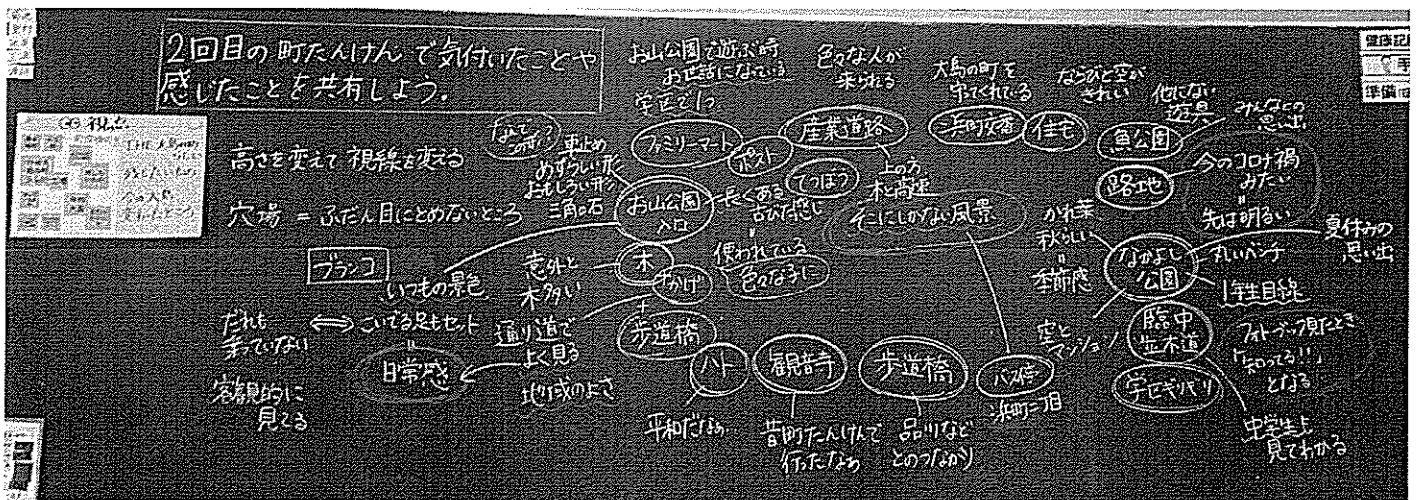
*音などにも注目してみたい。

*みんなが使っているって感じがする古びた鉄棒とかよさそう。

○2回目の町探検(浜町2丁目)をする。



○2回目の町探検を振り返る。



そこにしかない風景 見た人が「知ってる！」と思う景観 みんなの思い出

人が入った日常感 ⇄ 客観的に見るよさ

長い道の先が明るい写真 ⇒ 今のコロナ禍みたい。先は明るい。

* 2回の町探検をする前とした後で町の印象が変わった。

* 人によって大島らしさは違うと思う。みんな自分たちがたくさん使ったり、いっぱい見たりしている物が多い。

* 大島らしさがまとまるのはもう少し時間がかかるかもしれない。大島だからある特別なもの、日常的に使用しているものが大島らしさだと思うし、みんなと遊んでいる時間も大島らしさだと思う。

○3回目の町探検の準備をする

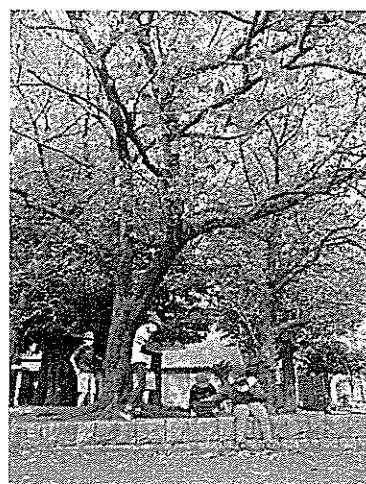
・追分方面はお店が多いからお店を見てきたい。

・ローソンの店長さん会えるかな。

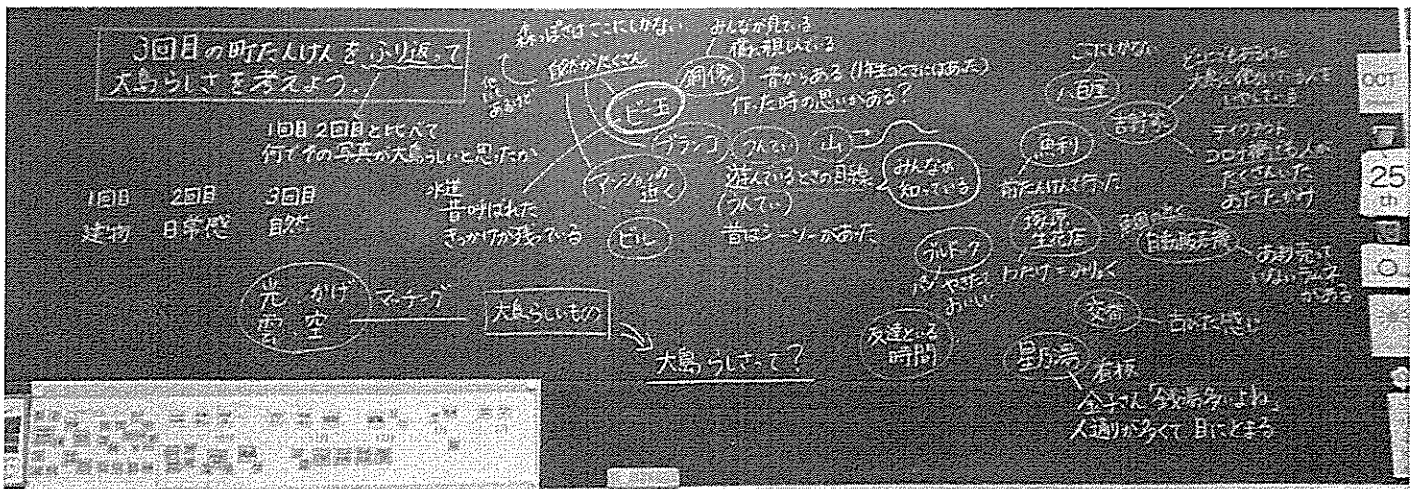
・八千代は今工事してるよね。

・町探検をしながら色々な人と話したいな。

○3回目の町探検をする。



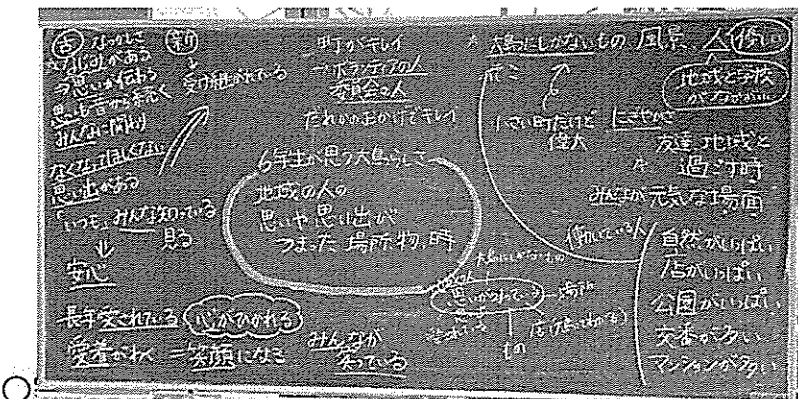
○3回目の町探検を振り返る



○自分たちが思う大島の町らしさをまとめる

- ・昔からあるもの(受け継がれているもの)
 …思い・思い出がつまっている、なつかしさ、なじみ、愛されている
- ・まちがきれいなこと…ごみが少ない、ボランティアの人、委員会の人、だれかのおかげできれい
- ・大島にしかない特別なもの
 …店・自然・公園・交番がいっぱい、他にもあるけど「そこ」は大島だけ、働いている人がいて特別
- ・みんなが知っているもの、愛着があるもの…「いつも」見ているもの、歩いているところ
- ・友達、地域の人…にぎやか、元気、優しい人がいっぱい、笑っている、友達・地域と過ごす時もらしさ

自分たちが思う大島の町らしさ = 地域の人々の思いや思い出がつまった場所・物・時



○調べてきたことを紹介し合い、大島らしさを見返す

*大人目線で聞くと、子どもが遊んでいたなどの意見が多かった。

*さらに大島のいいところがわかった。嬉しかった。もう1度聞いて、新しい情報を手に入れたい。

★自分たちの思う大島らしさと共通するところはあった。けれど世代によって思いや思い出は異なる。

○他学年や先生に大島らしさについてアンケートをとる

フォームでアンケートを作成。各学年にお知らせポスターを届ける。

○手作りりと印刷の作成方法について調べ、メリット・デメリットを考える。

○手作りにするか印刷にするか話し合う

	手作り	印刷 <small>◎未定</small>
メリット	時間をかける みんなでやれる最後の総合 ↓ 思いを込められる	見やすい、ハイクオリティ、画質◎ 色めせずにと残せる 素材がしっかり ⇒ 壊れにくい 見開き写真もOK 手作り感も出せる(文字デコレーション、絵) ※業者頼んでも心は込められる 1冊198円〜 安い業者もある
デメリット	時間がかかる ⇒ 何人でやれば◎ 学校のインク ⇒ 色も褪せない 高い <small>白石さんお!</small>	たくさん作ると高いのでは? <small>◎</small>

*印刷でも気持ちは伝わると思うし、きれいにできるのでいと思って意見が変わった。

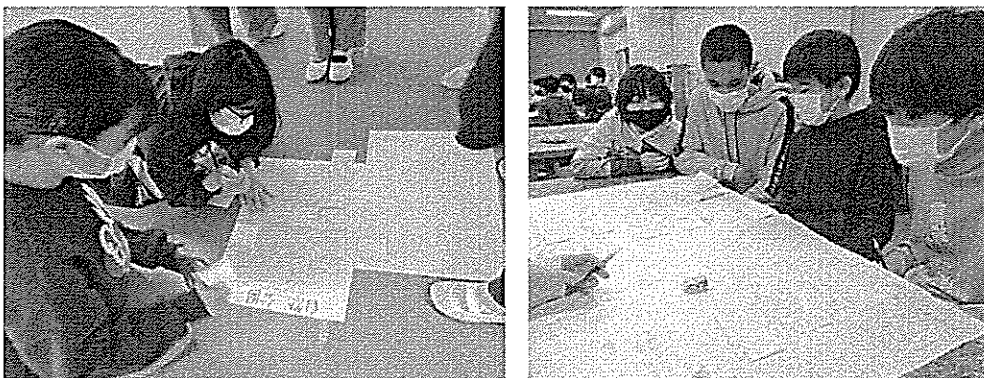
*みんな根拠をもって話して決まったから納得できる。

★印刷に決定!

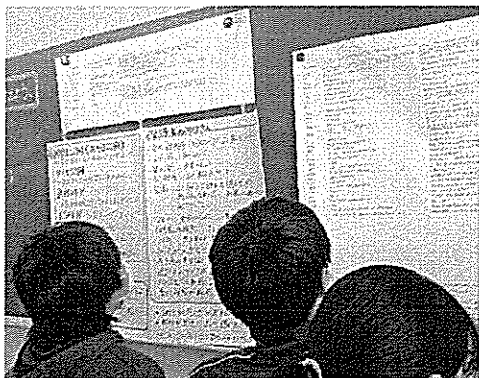
「つなぐ・残す」ためには、色褪せずにと残すことができ、壊れにくい印刷の方が良い。

手作りのメリットも活かせるよう、表紙などの文字で手作り感を出す。

○構成を確認し、各項目で撮影するものを集める

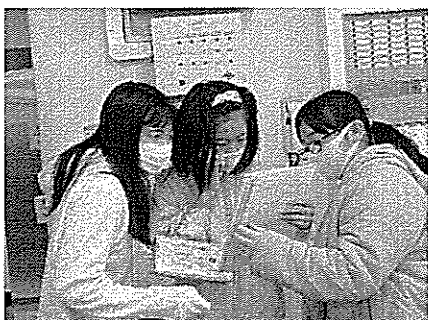


○地域の人のどのような思いや思い出を写真に込めるか考える。



アンケートの結果を見ながら、撮影内容を見返す。

○必要なお店にアポ取り。撮影計画。



○撮影



撮影したけど、思いがきちんと伝わるか不安。

○検討シール



<シールを貼る視点>

「思いや思い出が伝わる撮り方になっているか」

「もっとより良い撮り方がありそう」

「自信ないからもう一度みんなで考えたい」

○思いが伝わる写真の撮り方を話し合う



(新川通り)バス通りをもっと写すとお出かけに行く道路がより伝わる。
バス停をいれると大島のまちというのわかる。
(魚公園) 特徴的なぐるぐるの遊具が暗くてわかりにくい。
もっと陽があたって明るい時間に撮り直したらどうか。

○再撮影



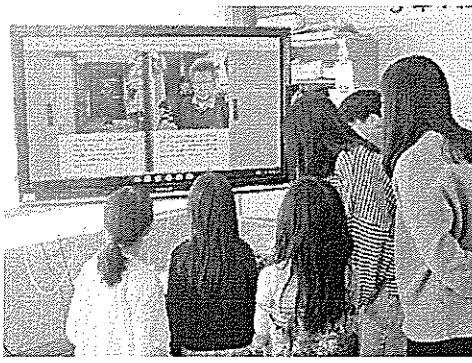
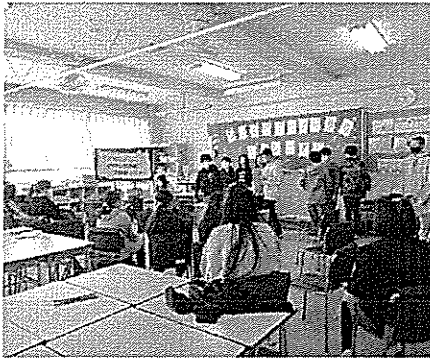
(左)検討前 (右)検討後

検討でもらった意見をもとに明るい時間帯に撮影

○フォトブック編集&写真のメッセージ作り ○おおし祭発表の準備



○おおし祭(児童のみ)&振り返り



○フォトブック完成に向けて、表紙・タイトル・残りのページ・はじめに・あとがきの内容を考える
<タイトル案>

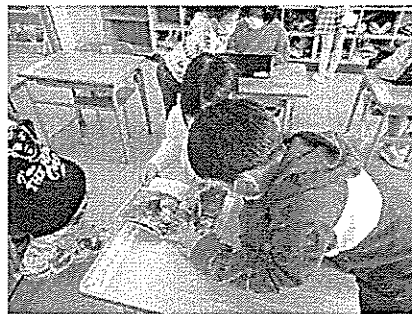
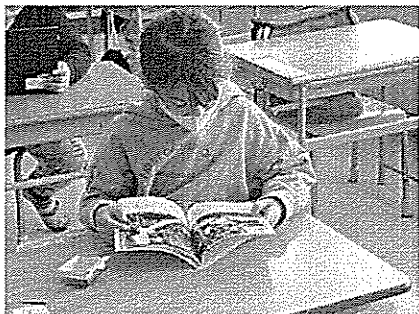
未来につなぐ大島の写真 未来に届け大島のまち おおしまのまち
一人一人の気持ちがこもった物語 など

<意見>

- ・「届け」だと見た人に届いて終わりの感じがする。「つなぐ」だと見た人からさらに次の人にもつなぐという意味になる。
- ・「届け」は「届いてほしい」という願い、「つなぐ」は「つなぐぞ!」という強い意志を感じる。
- ・「届け」は「思いが届く」という意味だから大事。
- ・2つを組み合わせたらどうか。「未来に届けてつなぐ〜」だと変。ただくっつけても伝わらない。
- ・「思いを届ける」「大島の町のよさ・らしさをつなげる」という意味で分けて「思いよ届け! 未来につなぐ〜」はどうか。⇒採用
- ・「まち」と「写真」はどちらにするか。「写真をつなぐのではなく、町のよさをつなぐからまちにした方がいい」
- ・一人一人の気持ちがこもった物語をサブタイトルにしよう。

タイトル 「思いよ届け! 未来につなぐ大島のまち」
サブタイトル ~ 一人一人の気持ちがこもった物語 ~

○フォトブック配付



③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・日頃当たり前に過ごしている町に対して「大好き」な気持ちを高めるために、地域と関わってきた6年間の写真を見て振り返った。・何度も町探検をし、残したい景観とは何かを何度も話し合った。・一人一人が毎時間ふり返りを行い、町に対する思いを表現し、自覚できるようにした。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で人と関わりながら町に出ていくことが難しかった。（まん延防止措置の時期も含めて）・話し合えば話し合うほど、町の景観に対する感じ方や思いは人それぞれで、一人一人異なることに多様性を感じつつ、子どもたちは悩む様子があった。苦労した点でもあり、学びどころだった。
<p>(3) 児童の反応</p> <p>～総合的な学習の時間、最後のスピーチより～</p> <ul style="list-style-type: none">・大島の町の好きな景観には地域の人々の思いや思い出がつまっている。その思いや思い出も含めて大島の町が好きだし、ずっと残って行ってほしい。・大島の町の素敵などがフォトブックにまとまり、色々な人に見てもらえてよかった。フォトブックと一緒に町の良い景観が残って行ってほしい。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・本校は約10年「生活科・総合的な学習の時間」で地域と多く関わってきたが、初めて助成金事業を依頼し、費用のかかる単元を構想した。子どもたちがお金を使ってプロの業者に頼むというプロセスがあることで、より本気に町に向き合う子どもの姿を見ることができた。手作りの良さもあるが、本物思考で学びを作っていくこともできるという発見にもなった。
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none">・実施した学年は6年生だが、フォトブックとして学校に残っていくので、来年度2年生の生活科や3年生の社会科・総合的な学習の時間の時間で活用し、地域の景観を守っていく活動を行っていく。